

「郷土研所蔵の古文書の日録公開と研究3」事業の進捗状況について

神谷 智（「郷土研所蔵の古文書の日録公開と研究3」事業分担者）

愛知大学総合郷土研究所（郷土研）には、長年にわたって収集されてきた歴史的古文書が多数所蔵されている。仮目録をもとにして古文書の点数を数えると合計で50,000点を超えている。収集された古文書の多くについては仮目録がすでに作成されているが、これはあくまでも「仮目録」であり、体裁も統一されておらず、内容の再検討も必要とされていた。またこの仮目録は研究所に配架して閲覧には供しているが、広く一般にみられるものとはなっていない。

こうした状況を克服するため、形式や内容がきちんと整備された目録を作成し公開する事業を2016年度から開始した。従来の仮目録の内容を点検して整備された「目録」を作成し、冊子目録として刊行するとともに、目録のデータベースをホームページ上で公開するというのが具体的な作業である。また、目録作成の作業や作成された目録をもとにして、古文書にかかわる研究を進め、学内外に広く公表することも目的としている。

2016年度から2018年度までの3ヶ年計画として「郷土研所蔵の古文書の日録公開と研究」と、および2018年度から2020年度までの3ヶ年計画として「郷土研所蔵の古文書の日録公開と研究2」の事業を行い、あわせて旧三河国関係の文書23,404点の日録データベースの作成を進め、冊子目録を4冊刊行し、ホームページ上で公開し終わった。また2019年には愛知大学豊橋校舎で、「古文書が語る豊橋・渥美一愛大郷土研所蔵文書から一」と題し、この事業の意義や成果と、整理で判明した近世近代期における旧三河国渥美郡についての新たな歴史的事実を紹介する記念講演会を

開催し、この事業の成果を大学内外に広く公表した。また、整理した古文書のうち、とくに注目できる文書について大学記念館にある郷土研展示室で、2019年度には「古文書が語る豊橋・渥美一愛大郷土研所蔵文書から一」、2021年度には「奥三河をつなぐ乗本村の水運」の展示公開も行った。

今回の「郷土研所蔵の古文書の日録公開と研究3」の事業については、2020年度から2022年度までの3ヶ年計画で、郷土研に所蔵されている歴史的古文書のうち、三河国八名郡牛川村松坂家文書約14,000点を対象に、文書の再点検と目録データベースの作成を行い、冊子体の目録3冊を2022年度に同時刊行し、すでに構築されているホームページ上で公開するためのシステムに冊子目録に対応したデータベースの公開を行うことになっている。

最終年度となる本2022年度においてはすでに全文書14,672点の日録データベースの作成を完了し終え、2023年1月時点で、冊子目録の刊行およびホームページ上で公開するための準備をしている。

なお、2021年度には経過報告として大学記念館にある郷土研展示室で展覧会「吉田藩御用達松坂家旧蔵 絵地図あれこれ」を実施した。

以上の事業のうち、冊子目録刊行作業とデータベースのホームページ上での公開の作業、展示公開については、おもに荒木亮子・藤井奈都子・田中博久（3名いずれも郷土研研究員）・水船早紀（愛知大学大学院文学研究科日本文化専攻修士課程1年）・藤島夢花（同博士後期課程1年）が担当している。